



AMITA

T O D A Y

アマタホールディングス株式会社

第2期 報告書

2011年1月1日～2011年12月31日

トップインタビュー



アマタホールディングス株式会社
代表取締役会長兼社長

熊野 英介

関係性の
プラットフォームを
とおして
アマタは社会への
“共感”を広げます。

持続可能社会の実現に向けて、
つねに進化を続けるアマタグループ。
東日本大震災という転換点に立って、
さらに大きな自己変革を
遂げようとしています。

アマタとは、改めてどのような会社ですか？

Question | 01

熊野 ある会社にとって廃棄物だったものが、別のある会社にとっては原料になる——私たちがそれに気づいたのは1979年のことでした。以来35年近く、アマタは循環型システムを使った“地上資源”の採掘に努め、再資源化という新しい市場を開拓しました。

1992年のリオ環境サミットや、1997年の京都議定書を経て、それまで“公害問題”として括られてきた課題が

“環境問題”として注目を集める中、私たちは社会的課題を解決する“社会企業”の草分けとして活動してきました。

今の幸せだけを享受したら、未来が壊れていくのが環境問題です。快適さや便利さを追求し、環境リスクに目をつむる時代は過去のものとなりました。

アマタが1トンの廃棄物を資源化した瞬間に、埋立地も地下資源も確実に延命します。

経済や環境のグローバル化が進むと、多くの企業はリスクの回避を財務体質の強化だけで乗り切ろうとしました。私た

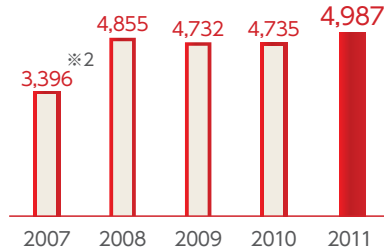
ちからすれば課題の先送り以外の何物でもありません。リスクを回避するのではなく、課題にチャレンジすることで、社会に価値を提供する会社でありたいと私たちは考えています。

現代社会が抱える課題をどのようにとらえていますか？

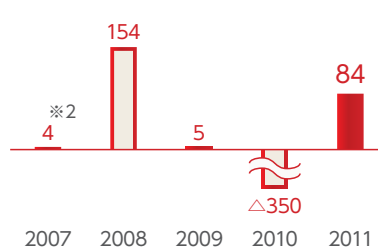
Question | 02

熊野 不必要に人間の欲望を喚起して、大量生産・大量消費により成長と発展を遂げたのが現在の資本主義です。その結果、信用不安や信用収縮が広がってい

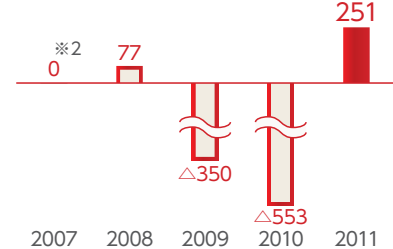
連結売上高 (百万円)



連結営業利益 (百万円)



連結当期純利益 (百万円)



※1 2009年12月期以前の数値はアマタ側の参考数値です。
※2 2007年は決算期変更により、4月から12月の単独の数値です。

き、現在、人々の間では不安と孤独が蔓延しています。わが国では毎年3万人以上が自殺で亡くなっています。

そして、東日本大震災は、人々の最大幸福を担い、生命財産を守るはずだった巨大システムを一気に崩壊させました。震災と津波に襲われた途端に、電気は来ない、水は来ない、飯は炊けない、暖は取れない——つまり、人間の尊厳そのものが停止せざるを得ませんでした。

70億人も人間が暮らす地球を、未来につなぐためには本気で持続可能社会

を構築しなければなりません。

この1年、アマタグループは どのような取り組みを？

Question | 03

熊野 新たな取り組みの1つとして、サーフショップを展開するパタゴニア日本支社様と提携し、修理不能となったサーフボードやウェットスーツをセメント原燃料に100%再資源化するという日本初の試みを始めました。また、廃棄物管理の効率化とリスク低減を両立した「e-廃棄

物管理」を2009年に提供して以来、徐々にお客様が増加し、手続きが煩雑であった廃棄物管理業務を人為的なミスから守れると評価していただいています。営業体制面では、埼玉、広島、仙台に営業所を開設しました。

多くのお客様にご支援をいただいただけではなく、仕入れ先様の協力支援や社員の頑張りのおかげもあり、前期5億5000万円の赤字から当期は2億5000万円の黒字とV字回復を果たしました。グループの基盤事業である地上資源の売上と利

写真で振り返る当期の活動



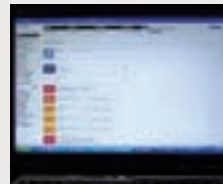
東日本大震災によって発生した想定外の産業廃棄物を、迅速かつ安全にリサイクルするプログラムを立ち上げ。



東日本大震災のボランティア活動を宮城県南三陸町で実施。



パタゴニア日本支社様の「廃サーフボード」「廃ウェットスーツ」を100%再資源化するリサイクルサービスを提供。



クラウドサービス「e-廃棄物管理」で廃棄物管理業務の効率化とリスク低減をご支援。



東日本大震災の長期的復興活動と日本の新たな再生を目指し東北オフィスを開設。

トピックインタビュー

益が昨年度より進めてきた製造体制の強化により伸びたこと、事業の“集中と選択”を図ったことが、実を結びました。

株主総会で定款変更を 決断されましたね？

Question | 04

熊野 震災直後の株主総会で定款変更をお願いしました。これからは「自然資本」と「人間関係資本」の増加に資する事業しか行わないという内容で、株主様から満場一致で承認いただきました。アミタグループが「持続可能社会」を体現する企業体に近づいたことを意味しています。お客様、仕入れ先様、社員、株主様というステークホルダーが当社に大きな期待を寄せて下さっていることを改めて実感しました。



この1年で総株主様は420名から906名と倍以上に膨らみ、貨幣価値に換算できない“良関係”の認識に立ち戻ることができました。

Our Missionの改定や 本社移転も話題に なっていますが？

Question | 05

熊野 アミタは創業以来、理念に基づく経営を心掛けてきました。Our Mission

というのは私たちの世界観を形にしたものですが、一緒に「幸せになろうよ」というメッセージを発信したかったのです。この世は流転であると定義し、どうしても誰もが幸せになる社会が実現するかを追求しています。

Our MissionⅡのキーワードは“共感”です。私たちの足元から共感を広げていくため、〈出資・参画・利用〉を掲げました。株主として出資する、共通の価値を創るために知恵を出して参画する、

Our Mission Ⅱ

智慧と生命は無限である。

環境の変化と感応の変化による外から内からの
関係性の成立が我々を構成する。

何一つ安定する事象はなく、流転の世界を形成する。

私が私であるために、無限の生命の良関係が必要である。

我々の心の内には、人々が求めているものがある。

求めているものは、未来の子供達の尊厳を守ること。

我々には、その求めているものを形にして、提供する情熱がある。

我々は、宣言する。

生命は価値をつくる資本であることを証明し、

持続可能社会の実現のため

循環的関係性構築を第一優先と考え、

自然資本と人間関係資本の増加に資する事業のみを行い、

生命システムの尊厳を守ることを。

当社に就職するのも参画の1つの形で
す。その結果生まれた商品・サービスを
買うのが利用です。“共感”の輪で社会企
業としてのふところも大きくなり、共感
資本が蓄積されていきます。

本社機能の京都への移転は、前々から
考えていました。アマタはお客様の環境
リスクを預かる会社です。東京に万一災
害が起こっても活動は停止できません。
本店を東京に、本社を京都に置くこと
でリスクを分散し、万一のリスクにも機敏
に対応できるようにすることが、お客様
に対する最低限の礼儀であると考えてい
ます。

近未来のアミタ像を どのように描いていますか？

Question 106

熊野 顕在化したニーズに対応するの
ではなく、これから社会の課題解決につな
がる潜在ニーズを掘り起こす事業化を目

指します。

私たちが「自然資本」と「人間関係資本」
に特化した事業に集中するということ
は、これから地球規模で吹き出す「高齢
化」「少子化」「環境」「エネルギー」「食」な
どの課題解決と表裏の関係にあります。

東日本大震災後の昨年7月、私たちは
仙台市に東北オフィスを開設しました。
震災で甚大な被害を蒙った東北の地に、
森林、里地・里山・里海の再生、エネル
ギー資源の再生、持続可能な復興向け
た復興プランを提案し、新しい再生モデ
ルを実現したいと考えています。いま東
北はまさに可能性を秘めた「未知国(みち
のく)」そのものです。

今後、宮城県南三陸町で未利用の森林
資源をカスケード利用する一方、街から
発生する生活系廃棄物を活用した小規模
発電プロジェクトを進めようとしていま
す。自然に負荷の少ないバイオマス発電
は、天候に左右される太陽光発電との相



性も良く、持続可能社会の構築にふさわ
しいものとなるはずです。

わが国は、中国や韓国からも追いか
けられ、未来に夢の描けない社会になろう
としています。でも、私は希望を失って
いません。日本こそ世界に誇れる「課題
先進国」であり、豊かな「自然」と豊かな
「人間関係」をもってすれば、この国が抱
える「高齢化」「少子化」「環境」「エネ
ルギー」「食」などの課題を解決に導き、世
界に新しい道標を示すときが必ず来ると
確信しています。

写真で振り返る当期の活動



農業を通じた食料生産と生物
多様性保全を両立しようとする
取り組みの支援を実施。



漁師自身による鮮魚の直販や
現地訪問ツアーの企画運営を
通じて、地域漁業の活性化を
ご支援。



4年に一度開催されるFSC®総
会(会場：マレーシア)に参加。
認証基準に関する提言を実施。

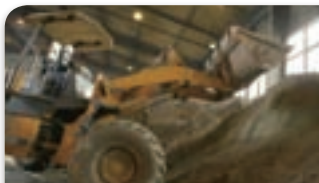


20年以上の韓国市場でのビジ
ネス経験を基に、台湾、ロシア
また伸長著しい中国などでも事
業機会を拡大。



エコプロダクツ展にて「廃棄物
管理の法と実務セミナー」と廃
棄物管理者検定を実施。

アミタグループの事業



地上資源事業

売上高
4,422
百万円
(売上高構成比 88.6%)

連結売上高
4,987
百万円

※3)

環境ソリューション事業

売上高
356
百万円
(売上高構成比 7.1%)



地下資源に代わる新たな資源を創る、地上資源事業

アミタ(株)は、産業廃棄物を新たな資源として再生する「地上資源事業」を35年以上にわたり展開しています。製品以外のものはすべて「地上の資源」と考えるアミタ(株)では、廃棄物を「発生品」と呼び、独自の「調査」技術と世界に広がるパートナー企業のネットワークを活用し、100%再資源化しています。全国5箇所の循環資源製造所の生産量は年々増加しており、営業拠点も2011年度に3拠点、2012年年初に1拠点、新たに開設しています^{※1)}。東日本大震災の際には、停電や荷崩れ等により突発的に発生した発生品を短期間でリサイクルするプログラムを開発し、被災企業の早期復旧を支援しました。

また、CSR・環境部門に特化したマーケティングノウハウとIT技術を駆使し、コスト削減からリスク対策、コンプライアンス強化、ブランド力向上、攻めのCSR活動まで、幅広く企業のCSR・環境業務を支援しています。

※1) 営業拠点数は2012年3月1日現在、全国に9拠点。

アミタグループは、『持続可能社会の実現』を目指す未来デザイン企業です。社会の全体最適を導き、実行することが私たちの使命です。

※3) 自然産業創出事業におきましては、2011年3月に「森林ノ牧場 那須」の事業譲渡及び9月には(株)トビムシの株式を譲渡したことにより、9月末をもって休止しております。

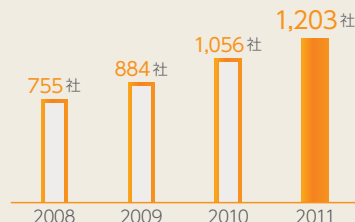
218百万円(売上高構成比 4.3%)

関 連 会 社

アミタ株式会社

- 廃棄物の再資源化
- リサイクルオペレーション
- リサイクル製品の提供、新商品開発
- CSR、環境分野に特化したマーケティング支援
- 環境業務のIT化支援
- グリーン電力証書発行

年間顧客取引数



関 連 会 社

株式会社アミタ持続可能経済研究所

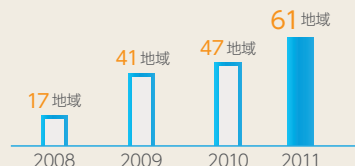
- 地域プロデュース
- CSR・環境コンサルティング
- 一次産業コンサルティング
- 自然資本の再生・利活用

株式会社アミタ環境認証研究所

- 環境認証の審査、開発

支援地域数

(AISEの事業で支援した地域数の累計)



一次産業から三次産業まで、幅広いソリューションを提供する、環境ソリューション事業

(株)アミタ持続可能経済研究所(AISE)は、漁協の経営支援、生物多様性保全型農業の活動支援など、地域再生・自然再生の事業プロデュース及びコンサルティングを実施しています。また、企業のCSR活動支援や環境リスク低減、環境部門業務支援などを実施し、産業分野を問わず様々なソリューションを提供しています。

(株)アミタ環境認証研究所(AIEC)は、FSC®森林認証、MSC COC認証の審査、及び新たな認証サービスの研究・開発を実施し、責任ある適切な資源の利用を推進しています。^{※2)}

※2) (株)アミタ環境認証研究所はFSC認定認証機関Soil Association WoodmarkおよびScientific Certification Systemsと提携しFSC認証審査を、MSC認定認証機関として、MSC COC認証審査を実施しています。FSC-SECR-0095 ©1996 Forest Stewardship Council A.C. MSC10128 <http://www.msc.org>

※連結売上高には、調整額を含んでいます。

連結財務諸表(要約)

連結貸借対照表

(単位:千円)

科 目	当 期 (2011年12月31日現在)	前 期 (2010年12月31日現在)
(資産の部)		
流動資産	1,801,217	1,712,675
固定資産	2,261,069	2,412,705
有形固定資産	1,995,963	2,157,926
無形固定資産	62,623	80,652
投資その他の資産	202,482	174,126
資産合計	4,062,287	4,125,381
(負債の部)		
流動負債	1,915,032	2,478,825
固定負債	1,570,273	1,322,137
負債合計	3,485,306	3,800,962
(純資産の部)		
株主資本	576,980	323,223
資本金	474,360	473,000
資本剰余金	407,939	406,579
利益剰余金	△305,269	△556,355
自己株式	△49	—
少数株主持分	—	1,194
純資産合計	576,980	324,418
負債純資産合計	4,062,287	4,125,381

連結損益計算書

(単位:千円)

科 目	当 期 (2011年1月1日～ 2011年12月31日)	前 期 (2010年1月4日～ 2010年12月31日)
2 売上高	4,987,699	4,735,682
売上原価	3,215,490	3,073,087
売上総利益	1,772,208	1,662,594
販売費及び一般管理費	1,687,301	2,013,166
営業利益又は営業損失(△)	84,906	△ 350,571
営業外収益	131,444	78,327
営業外費用	51,474	38,274
経常利益又は経常損失(△)	164,876	△ 310,518
特別利益	29,979	36,284
特別損失	100,365	103,696
3 匿名組合損益分配額	△ 6,867	△ 8,060
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失(△)	101,357	△ 369,870
法人税、住民税及び事業税	9,258	58,608
法人税等調整額	△ 143,828	131,358
少数株主損失(△)	△ 15,235	△ 6,287
当期純利益又は当期純損失(△)	251,163	△ 553,549

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

科 目	当 期 (2011年1月1日～ 2011年12月31日)	前 期 (2010年1月4日～ 2010年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	365,587	329,187
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 119,466	△ 804,782
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 127,256	503,311
現金及び現金同等物に係る換算差額	2,095	952
現金及び現金同等物の増加額	120,959	28,669
現金及び現金同等物の期首残高	739,284	710,615
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	639	—
現金及び現金同等物の期末残高	860,883	739,284

POINT

1 負債の部

負債につきましては、買掛金等債務の増加もありましたが、銀行借入金の返済や補助事業に伴う前受金の減少により、前連結会計年度末に比べ315,655千円減少し、3,485,306千円となりました。

2 売上高

売上高は昨年新設した川崎循環資源製造所、北九州循環資源製造所の影響により4,987,699千円(前期比5.3%増、前期差+252,017千円)となりました。

3 利益

営業利益は不採算事業の整理とコスト削減施策の効果により売上原価や販売管理費が減少したため84,906千円(前期比－、前期差+435,477千円)、経常利益は助成金による営業外収益の増加もあり164,876千円(前期比－、前期差+475,394千円)、当期純利益については繰延税金資産の増加に伴う法人税等調整額の計上により251,163千円(前期比－、前期差+804,713千円)と大きく改善いたしました。

会社情報

会社の概要 (2012年1月1日現在)

会 社 名	アマタホールディングス株式会社 (AMITA HOLDINGS CO.,LTD.)
代表取締役会長兼社長	熊 野 英 介
本 社 住 所	〒602-8024 京都府京都市上京区室町通丸太町 上る大門町253番地 TEL:075-277-0378 (代表) FAX:075-255-4527
資 本 金	474,360,000円
設 立	2010年1月4日
社 員 数	184名 (連結)
主 要 取 引 銀 行	みずほ銀行 三菱東京UFJ銀行 三井住友銀行

役員の構成 (2012年1月1日現在)

代 表 取 締 役 会 長 兼 社 長		熊 野 英 介	
常 務 取 締 役	杉 本 憲 一	監 査 役	山 本 茂 樹
常 務 取 締 役	藤 原 仁 志	監 査 役	中 川 雅 文
取 締 役	清 水 太 朗	監 査 役	名 越 秀 夫
取 締 役	竹 林 征 雄		



グループ運営サイトのご紹介

アマタグループでは、企業のCSRレポート・環境報告書をテーマ別に読み比べられるポータルサイト「CSR JAPAN」を2010年11月より運営しています。「経営者メッセージ」等のテーマに絞り込んで、各社のレポートを比較する機能等を備えており、現在162社329レポート(2012.2現在)を掲載しています。CSR活動のプラットフォームとして、企業と閲覧者とのCSRコミュニケーションを促進します。

<http://www.csr-japan.jp/>

大株主 (2011年12月31日現在)

株主名	所有株式数 (株)	持株比率 (%)
熊野 英介	372,940	31.93
アマタ社員持株会	73,460	6.29
大阪証券金融株式会社	42,200	3.61
浦辺 久	30,000	2.57
福永 秀昭	28,200	2.41
株式会社三菱東京UFJ銀行	26,000	2.23
株式会社サステナブル・インベスター	23,600	2.02
株式会社みずほ銀行	20,000	1.71
株式会社三井住友銀行	20,000	1.71
日本生命保険相互株式会社	20,000	1.71

株式の状況 (2011年12月31日現在)

発行可能株式総数	2,400,000株
発行済株式の総数	1,168,024株
株 主 数	906名

(注)持株比率は、発行済株式から自己株式数を控除しております。

株主メモ

事 業 年 度	1月1日から12月31日まで
定 時 株 主 総 会	3月
基 準 日	12月31日 その他必要があるときは取締役会の決議によりあらかじめ公告して設定
配当金受領株主確定日	12月31日及び中間配当を実施するときは6月30日
公 告 方 法	電子公告 ただし、事故その他やむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載する
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同 事 務 取 扱 場 所	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 0120-232-711 (フリーダイヤル)

AMITA アミタホールディングス株式会社

〒602-8024 京都府京都市上京区室町通丸太町上る大門町253番地
TEL.075-277-0378 (代表) FAX.075-255-4527



森の町内会

間伐に寄与する紙
www.mori-cho.org

古紙のリサイクルに取り組むオフィス町内会と、森林の再生に取り組む岩手県岩泉町との連携により実現した「森の町内会―間伐に寄与する紙―」を使用しています。

